理事長メッセージ

# 創立120周年の先を見据えて

2020年11月3日、本学は創立120周年を迎えます。1900年に前身である「台湾協会学校」として設立されて以来、「国際大学」のパイオニアとして多種多様な教育や取り組みを行ってまいりました。そしてグローバル化の時代を迎え、その重要性はさらに増しています。数年前から「SDGs（Sustainable Development Goals／持続可能な開発目標）」をめざす取り組みの必要性が一般的に認識されるようになりました。その17ある目標の中には、環境汚染や資源、エネルギーやジェンダーなど、さまざまな課題解決に向けたゴールが設けられています。なかには開発途上国における貧困などの課題に関するものもありますが、そのような取り組みを本学は創立当初から行って参りました。それは、「積極進取の気概とあらゆる民族から敬慕されるに値する教養と品格を具えた有為な人材の育成」という建学の精神に基づき、国際社会のリーダーたる人材、「拓殖人材」の育成を目標としたものです。

次世代のリーダーに必要な素養は、「専門性」「国際性」「人間性」です。専門性は普段の授業やゼミナールで、国際性は海外研修や留学生たちとの交流を通して身につけることができます。そしてこれからの時代に何より大切なのは人間性です。人工知能（AI）の導入や普及がますます広がることが予測されるなか、本当に必要とされるのは、目前の困難を自分の目で確認し、思考を巡らせ、責任を持って突破できる人材だと考えています。そのような力を、部活動やサークルなどのほか、「2020 TAKUSHOKU NEW ORANGE PROJECT」での活動を通して、学生に身につけて欲しいと考えています。なお、同プロジェクトは、次の10年を見据えるべく、運営体制を刷新して活動を続けていく予定です。

しかし、120周年という大きな節目を目前に、新型コロナウイルス感染症の拡大により本学は大きな影響を受けました。2019年度の卒業式、2020年度の入学式を中止しました。5月25日から遠隔授業をスタートし、6月1日からは文京および八王子国際キャンパスへの入構を制限するなどして感染拡大防止策を講じながら、図書館やPC自習室の段階的な開放、教科書のインターネット販売、就職課Webサテライトなど、勉学および就職に関するサポートに取り組んでまいりました。

さらに、「遠隔授業支援特別奨学金」として全学生に一律5万円の給付や、新型コロナウイルス感染拡大の影響により家計が急変した世帯の学生に対する特別救済措置としての「学業継続のための給付奨学金」を、国による「新型コロナウイルス学生支援」に先駆けて給付してまいりました。このような対応を実現できたのは、拓殖大学学友会や拓殖大学後援会の皆様から寄せられた多大な寄付金のおかげです。誠にありがとうございました。

本学では、3月に「新型コロナウイルス感染対策本部」を立ち上げました。週に1回、学長、役員、幹部職員らでミーティングの機会を設け、課題解決のための話し合いや情報交換を行っています。引き続き、学生・保証人の皆様のためにできることに全力で取り組んで行く所存です。

学生のみなさんは、これからの日本を背負っていく有望な人たちです。今回の試練を乗り越えて、未来に向かうための強い気持ちを持っていただきたいと考えています。現状では、遠隔授業を軸にして学びを進めなければならず、皆様にはご苦労されていることと思います。しかし、この状況を逆手に取って、教員や仲間たち一人ひとりの繋がりを作っていただければ幸いです。そしていつか、親しい友人と一緒に、尊敬する先生の授業を対面で楽しく受けられることを待ち望みながら、頑張ってほしいです。そんな日が一日でも早く来ることを、教職員全員が切望しています。120周年という記念すべき年に遭遇した困難な状況を、大学、保証人の皆様、そして卒業生や関係者の方々とともに乗り越えていきましょう。

拓殖大学 理事長
福田（ふくだ） 勝幸（かつゆき）

1944年青森県生まれ。1967年拓殖大学商学部貿易学科（現：国際ビジネス学科）卒業。1979年9月より拓殖大学学生主事室（現：学生支援室）に勤務。その後、学務部長、総務部長、事務局長、常務理事を歴任。2011年6月より現職。